

令和5年度 いのちの授業 事例集（幼稚園こども園）【その他】

掲載数

12

地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 横須賀市	幼複合	その他	食育・生命尊重	<p>米やジャガイモ、トマト、ピーマン、キュウリ、サツマイモ、ニンジン等の作物を栽培・収穫する活動を通して、四季の変化や植物の生長のようすを感じ取るとともに、収穫の喜びや自然の恵みへの感謝の気持ちを感じることができた。</p> <p>また、毎月「お楽しみランチ会」を開催して、自分たちが育てた米や取れたての野菜を調理して食べることで、食への関心を高めることができた。</p>	通年実施
2 相模原市	幼複合	その他	防災教育 「災害から命を守る」	<p>消防署職員と共に地震、火災の訓練を実際に行い、災害時の避難の際に気をつけることについて話があった。火災が起きた際に一番怖いことは煙を吸うことであり、口や鼻を手やハンカチで覆い、姿勢を低くすることが大切であることを教えてもらい、真剣に聞く姿があった。また、消防士に向けての質問の時間を設けることにより、子ども達が災害について考え、納得し再認識する姿も見られた。</p> <p>さらに幼児向けの災害のアニメーション映画を見ることにより、自分自身で身を守る大切さを知ることができた。</p> <p>その後、保育教諭が集会時に話を振り返ると、覚えている園児も多く、日々の訓練だけでなく消防署職員から話を聞くことにより、命を守るためにとる行動についての理解が深まった。</p>	<p>講師には消防署職員</p> <p>幼児向けの災害時の避難についてのDVD</p>
3 中	年長	その他	お米作りを通して食べ物大切さや食べる喜びを知る。	<p>6月より地域の小学5年生のバケツ稲の取り組みの過程を見たり一緒に手伝いをさせてもらったりしてきた。園でも自分達でお米を育てることになり、土作りや田植え、かかし作りや害虫対策、収穫、はざかけ、脱穀、もみすりと行ってきた。保育室前にバケツ稲を置き、米の成長を喜んだり、疑問をもったりして毎日観察したり世話をしたりできるようにしてきた。脱穀やもみすりでは時間がかかり、「疲れた」と言いながら最後まで取り組む姿を見せていた。もみすりをして取れた玄米を炊いておにぎり会食をする時、「幸せ！」「最高！」「おかわり！」と普段食事が進まない幼児も喜んでお米を食べていた。お米ができるまでの大変さを知るとともに、自分達で作ったお米のおいしさを味わうことができた。また、脱穀した後のわらは、小さく切って畑の肥料にして土作りをし、冬野菜を育てるなど、無駄なく活用することができた。</p>	

4	中	年長	その他	AEDってなんだろう	<p>担任が「普通救急救命講習」を消防署の指導のもと受講した。翌日、年長児に「命を助ける方法があること」「命を助ける機械があること」を知らせ、園に設置しているAEDを実際に見せ、触れられるように保育室に設定し紹介した。</p> <p>幼児は、実際のAEDの機械や、担任が資料としていただいた救命講習の行い方のパンフレットに興味をもって手にとり、実際に心肺蘇生のやり方を人形を使ってまねたりした。翌日、降園後家族で出かけた先にAEDが設置してあったことを担任に伝える幼児がいた。興味や関心をもち、命を助ける守る方法があることに気づくことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AED（園に設置）</li> <li>・ 応急手当講習テキスト</li> </ul> 救急車がくるまでに
5	中	幼複合	その他	土砂災害ってなんだろう	<p>本園では月に一度、避難訓練を実施している。地震、火災、不審者、地域の小学校中学校保育園と同日開催する引き取り避難訓練、そして土砂災害避難訓練である。本園は、市のハザードマップで土砂災害特別警戒区域に指定されている場所にある。土砂災害での被害や被災した方の様子を動画で見た。園にいるときに土砂災害が起こりそうになったときの避難の仕方について確認した。園児は「怖いな」「雨がたくさんふると川も危ないね」などと自分の思いや考えを伝え、実際に避難するときに備えていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ youtube 内閣府防災【子供版】警戒レベルに関する映像</li> </ul>
6	中	年長	その他	飼育	<p>蚕を育てることになる。昨年年長児から見せてもらった経験もあり、興味をもっていた。長く触ると良くないことを教えてもらっていた子ども達はお互いに「持ちすぎじゃない？」と声を掛けたりしていたが、可愛くてつい沢山撫でたり触ったりしていた。ある日一匹の蚕が死んでしまう。「触りすぎちゃったかな」と自分の扱いを振り返ったり「他の蚕はどうしたら元気に育つのかな」と本で調べたり保育教諭に聞いたりし、人間の体温で火傷をすること、桑の葉は水分が付いていると良くないことがわかった。それからは可愛いくても大切だからこそ「触るのはちょっとだけにしよう」と気を付けたり、葉の水分を丁寧に拭いてからあげたりとより一層大切に育てるようになった。子どもたちなりに「命あるものを大切にすること」とはどうすることなのか命の尊さを学ぶ機会になった。</p>	
7	中	年長	その他	飼育栽培	<p>クラスでホウセンカを育てることになる。1人の幼児が葉に黒い虫がついていることに気がつく。見た目も黒く、害虫だと思い込み「きもちわるい」という幼児もいた。よく調べてみると名前は「セスジスズメ」で主にホウセンカやヤブガラシの葉を食べること。このまま葉を食べ続けられるホウセンカの気持ちと、いきなり食べるものがなくなってしまうセスジスズメはどんな気持ちか、子どもたちに投げかけると「食べるものがないと死んじゃう」「でも葉っぱ全部食べられるホウセンカもかわいそう」などの意見が出た。クラスみんなで考えた結果、園の中にヤブガラシが生えている場所を見つけ、そこにセスジスズメを移動することにした。見た目だけで判断し命を粗末に扱わないことや、植物にも命があることを改めて実感する経験になった。</p>	

8	県西	幼複合	その他	関東大震災の話	<p>9月1日の第1学期始業式の日、100年前に関東大震災が起こった日だった。始業式の中で、子どもたちと夏休みの経験を伝えあつた後、本題に入る。「今日は何の日？」と園長が問いかけた。ニュースで目にしたり、耳に入ってきた子も多く「知ってる！」大きな地震があつたんだよね！」と自慢そうに発言する子もいた。100年前に予想できないくらい大きな地震が起こり、多くの人が命を落としてしまったことを話した。日頃行っている避難訓練について振り返り、「命を守る大切な訓練」を引き続き実施していくことを話した。一人一人の意識に深く残ることを期待している。</p>	
9	県西	年少	その他	生き物（命）が過ごしやすい環境を準備し、サポートする気持ち	<p>11月に、うさぎの飼育当番を、年長組から任された子どもたちは、年長児に教えてもらった通りに世話を続けている。時折「今日もご飯をいっぱい食べたよ」と笑顔で年長児に報告する姿があつた。毎朝うさぎ小屋を箒や塵取りで丁寧に掃除をしながら「きれいになったね」「気持ちいいね」「ブラッシングもしてあげよう」「きれいなお水にかえてあげるね」とうさぎに話しかけ、一生懸命行っている。今では「散歩に行きたいのかな」と小屋から連れ出し、一緒に遊ぶようになった。縄跳びをしている子どもたちの横をびよんびよんはねるうさぎの様子に、いつまでも元気で長生きしてほしいと子どもたちと願っている。</p>	
10	県西	年中	その他	ヤゴのえさ	<p>6月8日、おたまじゃくし取りに出かけた。そこで大きなヤゴを見つけ、クラスで飼うことにした。ヤゴは何を食べるのか調べてみるが、図鑑に載っていなかった為、園長先生に聞きに行った。園長先生からおたまじゃくしを食べることを聞いた子どもたちは、「おたまじゃくしをあげるのかわいそう」という意見と「ヤゴにえさをあげないとヤゴが死んじゃうのかわいそう」という二つの意見に分かれた。話し合う中で、「どっちもかわいそうだから逃がす」という意見も出てきたが、とても大きなヤゴだったので、飼ってみたいという思いが強かった。「死んでしまったおたまじゃくしは食べるのかな？」と声をかけてみると、生きたおたまじゃくしはかわいそうという思いがある子たちは「それだったらいいよ」「ヤゴも飼ってみたいからあげてみよう」という思いになった。子どもたちの中で、生きているとかわいそう、でも餌がないと死んじゃうという生き物の命を考えるとともに、生きるために必要なことについて学び合う場面となった。</p>	飼育図鑑 園長先生
11	県西	年中	その他	カニのお世話	<p>園児が家の近くでカニを見つけ、幼稚園に持ってきた。ほかの友だちも興味をもち、クラスの中で飼うことにした。カニは何を食べるのか、どんなお家がいいのか図鑑で調べてみると石がある家がいいということを知った。また、園長先生や教頭先生から「お米を食べることやカニはかくれんぼが好きだから隠れるところがあるといい」という話を聞いて、みんなでカニの家作りを始めた。水の量は図鑑を見て「このくらいかな？」とみんなで考えながら入れていた。自分たちで飼うことに嬉しさを感じ、水が濁ってくると「お水変えたほうがよさそうだよ」と言い、子どもたちから率先して石をたわしで洗ったり、水を新しくしたりしていた。石を置くときも「ここだと隠られるよね」「ここに置いたら登って渡れるよ」など、カニが住みやすいように考えていた。毎日自分たちでお米の餌をあげて、命あるものを大切に飼育していた。</p>	飼育図鑑 園長先生、教頭先生

12	県西	幼複合	その他	今年も美味しいお米になーれ！	<p>今年も米作りに携わる経験をするなかで、今回は地域づくり委員会及び5年生の総合的な学習の時間の授業の中で、一緒に田んぼで泥んこ体験を行うことからスタートした。そのあと苗植え、稲刈り、脱穀と1年を通して稲の成長を見てきた。昨年作ったかかしを今年もリメイクして「稲を守ってね。」と田んぼに設置し、園にも稲を分けてもらい園庭でも育てたことで、カラスがいたずらしに来ると、カラス除けを作ったり、夏は冷たい水に入れ替えたり、どの学年も愛情を込めて育てる姿があった。年が明けて5年生に餅つきに招待されると、自分たちが携わった稲からもちへとかわり、それを食すことで命のつながりを実際に感じる経験が出来た。</p>	特になし
----	----	-----	-----	----------------	---	------